

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成29年2月14日

【四半期会計期間】 第45期第3四半期(自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)

【会社名】 イフジ産業株式会社

【英訳名】 Ifuji Sangyo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤井 宗徳

【本店の所在の場所】 福岡県糟屋郡粕屋町戸原東二丁目1番29号

【電話番号】 092-938-4561(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 原 敬

【最寄りの連絡場所】 福岡県糟屋郡粕屋町戸原東二丁目1番29号

【電話番号】 092-938-4561(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 原 敬

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	11,068,282	10,855,699	14,478,249
経常利益 (千円)	464,498	546,800	665,086
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	307,735	395,828	434,952
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	322,437	418,607	445,234
純資産額 (千円)	4,320,607	4,728,385	4,443,376
総資産額 (千円)	9,950,126	10,935,490	9,631,283
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	36.94	47.51	52.21
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	43.4	43.2	46.1

回次	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	21.75	22.42

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境の改善が見られ緩やかな回復基調で推移したものの、英国のEU離脱問題や中国等新興国の成長鈍化、さらに米国新政権への懸念等、海外の経済状況に不確実性が増し、先行き不透明な状況となっております。

当社が属する食品業界におきましては、政府や日銀の政策が可処分所得の上昇にはなかなか反映されないため、消費者の生活防衛意識がますます強まり、また中長期的には国内の人口が減少に転じていくことから、今後国内需要が先細っていく懸念があるなど、厳しい経営環境が続くことが予想されます。

このような状況の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績の状況につきましては、鶏卵関連事業において販売数量が前年同期比5.8%増と好調に推移いたしました。一方で鶏卵相場が前年同期に比べ大きく低下したことにより液卵の販売単価が低下したため、売上高につきましては前年同期比1.9%減の10,855百万円となりました。

損益につきましては、主に鶏卵関連事業において販売数量が順調に推移したことに加え、鶏卵相場が前年同期に比べ大きく低下して推移したため原料仕入単価が低下したこと等により、営業利益は同19.3%増の532百万円、経常利益は同17.7%増の546百万円となりました。また、水戸市の企業立地促進補助金36百万円を特別利益に計上したこと等により親会社株主に帰属する四半期純益は同28.6%増の395百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 鶏卵関連事業

当セグメントにおきましては、主要な商品である液卵の製品販売単価及び原料仕入単価が鶏卵相場に連動して変動するものが多く、鶏卵相場が高く推移した場合は製品販売単価及び原料仕入単価ともに高く推移し、低く推移した場合は製品販売単価及び原料仕入単価ともに低く推移する傾向にあるため、製品販売単価と原料仕入単価の差益を一定額以上確保するとともに販売数量を伸ばす努力をしております。

当セグメントにおける業績の重要な指標である販売数量につきましては前年同期比5.8%増と好調に推移しました。売上高につきましては、鶏卵相場（全農東京M基準値）が前年同期比12.1%（約29円）低く推移したため、連動する液卵の販売単価も低下し、液卵売上高は前年同期比3.9%減の9,170百万円となりました。また、加工品売上高は仕入商品の販売増等により同27.3%増の505百万円、その他売上高は同25.1%増の248百万円となりました。この結果、合計の売上高は、同2.1%減の9,924百万円となりました。

セグメント利益につきましては、販売数量が好調に推移したことや、鶏卵相場が前年同期に比べ大きく低下して推移したため原料仕入単価が低下したこと等により、前年同期比25.8%増の469百万円となりました。

#### 調味料関連事業

当セグメントの売上高につきましては、新商品による新規顧客の獲得や当社グループ内での輸入粉卵の委託加工等の販売が増加したこと等により、前年同期比2.6%増の1,003百万円となりました。

セグメント利益につきましては、平成28年度エネルギー使用合理化等事業者支援補助金の支援対象事業に係る一時的な費用が発生したことにより、前年同期比10.9%減の58百万円となりました。

#### その他

当セグメントにつきましては、売上高は前年同期比2.4%減の16百万円となり、セグメント利益は同41.4%減の4百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は10,935百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,304百万円増加しました。

流動資産は5,838百万円となり、前連結会計年度末に比べ704百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加821百万円及び商品及び製品の減少147百万円等によるものであります。

固定資産は5,097百万円となり、前連結会計年度末に比べ599百万円増加しました。主な要因は、建物及び構築物の増加709百万円、機械装置及び運搬具の増加243百万円、有形固定資産のその他に含まれる建設仮勘定の減少387百万円等によるものであります。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は6,207百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,019百万円増加しました。

流動負債は3,581百万円となり、前連結会計年度末に比べ486百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加360百万円、短期借入金の増加297百万円、未払消費税等の減少77百万円、流動負債のその他に含まれる未払費用の増加109百万円及び設備支払手形の減少200百万円等によるものであります。

固定負債は2,625百万円となり、前連結会計年度末に比べ532百万円増加しました。主な要因は、長期借入金の増加518百万円等によるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は4,728百万円となり、前連結会計年度末に比べ285百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益395百万円の計上及び配当金の支払い133百万円により利益剰余金が262百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の46.1%から43.2%となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は110百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,792,000
計	16,792,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,345,370	8,345,370	東京証券取引所 (市場第二部) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	8,345,370	8,345,370		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日		8,345,370		455,850		366,322

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,247,300	82,473	
単元未満株式	普通株式 83,570		
発行済株式総数	8,345,370		
総株主の議決権		82,473	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式77株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) イフジ産業株式会社	福岡県糟屋郡粕屋町 戸原東二丁目1番29号	14,500		14,500	0.17
計		14,500		14,500	0.17

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,948,242	1,957,151
受取手形及び売掛金	2,057,538	2,879,325
商品及び製品	755,215	607,255
仕掛品	60,788	49,409
原材料及び貯蔵品	267,948	241,195
繰延税金資産	25,198	23,631
その他	23,804	87,218
貸倒引当金	4,749	6,794
<b>流動資産合計</b>	<b>5,133,988</b>	<b>5,838,391</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	1,004,487	1,714,075
機械装置及び運搬具（純額）	753,184	996,470
土地	1,886,495	1,890,751
その他（純額）	711,552	325,884
<b>有形固定資産合計</b>	<b>4,355,719</b>	<b>4,927,181</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>28,034</b>	<b>22,085</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	94,300	129,113
その他	31,291	23,723
貸倒引当金	12,050	5,005
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>113,541</b>	<b>147,832</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>4,497,295</b>	<b>5,097,099</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,631,283</b>	<b>10,935,490</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	685,547	1,046,445
短期借入金	1,517,968	1,815,458
未払法人税等	116,780	68,880
未払消費税等	78,850	1,524
賞与引当金	64,401	34,352
役員賞与引当金		31,800
その他	631,514	583,398
流動負債合計	3,095,061	3,581,858
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,447,947	1,966,536
長期未払金	567,235	567,235
繰延税金負債	55,791	68,941
その他	21,871	22,533
固定負債合計	2,092,845	2,625,246
負債合計	5,187,906	6,207,105
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	455,850	455,850
資本剰余金	366,338	366,338
利益剰余金	3,597,132	3,859,666
自己株式	6,001	6,306
株主資本合計	4,413,319	4,675,548
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	30,057	52,836
その他の包括利益累計額合計	30,057	52,836
純資産合計	4,443,376	4,728,385
負債純資産合計	9,631,283	10,935,490

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	11,068,282	10,855,699
売上原価	9,432,645	9,059,107
売上総利益	1,635,636	1,796,591
販売費及び一般管理費	1,189,490	1,264,285
営業利益	446,145	532,306
営業外収益		
受取利息	560	352
受取配当金	982	1,122
受取賃貸料	13,760	18,087
建設協力金免除益	14,352	
その他	3,837	7,966
営業外収益合計	33,493	27,529
営業外費用		
支払利息	14,194	13,035
その他	946	
営業外費用合計	15,140	13,035
経常利益	464,498	546,800
特別利益		
補助金収入	10,000	36,562
特別利益合計	10,000	36,562
特別損失		
固定資産除売却損	15	6,201
特別損失合計	15	6,201
税金等調整前四半期純利益	474,483	577,162
法人税、住民税及び事業税	156,017	176,612
法人税等調整額	10,730	4,720
法人税等合計	166,747	181,333
四半期純利益	307,735	395,828
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	307,735	395,828

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	307,735	395,828
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,701	22,778
その他の包括利益合計	14,701	22,778
四半期包括利益	322,437	418,607
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	322,437	418,607
非支配株主に係る四半期包括利益		

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	
(会計方針の変更)	
法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。	
なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。	

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	千円	57,753千円
支払手形	千円	16,861千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
減価償却費	232,414千円	248,087千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	49,989	6	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	58,318	7	平成27年9月30日	平成27年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
 後となるもの  
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	66,648	8	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金
平成28年11月7日 取締役会	普通株式	66,646	8	平成28年9月30日	平成28年12月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
 後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,139,414	911,999	11,051,414	16,867	11,068,282
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,889	65,673	68,562		68,562
計	10,142,303	977,673	11,119,976	16,867	11,136,844
セグメント利益	373,298	65,754	439,052	7,092	446,145

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでおりません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	439,052
「その他」の区分の利益	7,092
四半期連結損益計算書の営業利益	446,145

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,923,182	916,049	10,839,231	16,467	10,855,699
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,450	87,373	88,824		88,824
計	9,924,633	1,003,423	10,928,056	16,467	10,944,523
セグメント利益	469,577	58,574	528,152	4,154	532,306

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでおりません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容  
 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	528,152
「その他」の区分の利益	4,154
四半期連結損益計算書の営業利益	532,306

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	36円94銭	47円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	307,735	395,828
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	307,735	395,828
普通株式の期中平均株式数(株)	8,331,351	8,330,868

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第45期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）中間配当について、平成28年11月7日開催の取締役会において、平成28年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	66,646千円
1株当たりの金額	8円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成28年12月9日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月14日

イフジ産業株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹之内 高 司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているイフジ産業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、イフジ産業株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。